

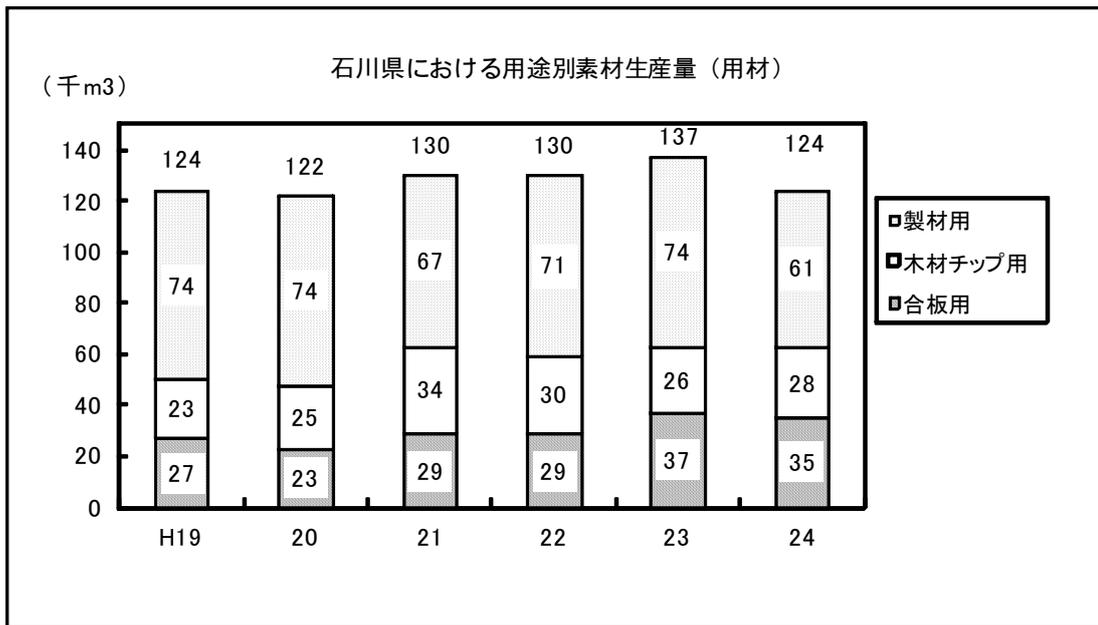
石川県における木材の加工流通の概要

1 木材需給の現況

(1) 素材(丸太)

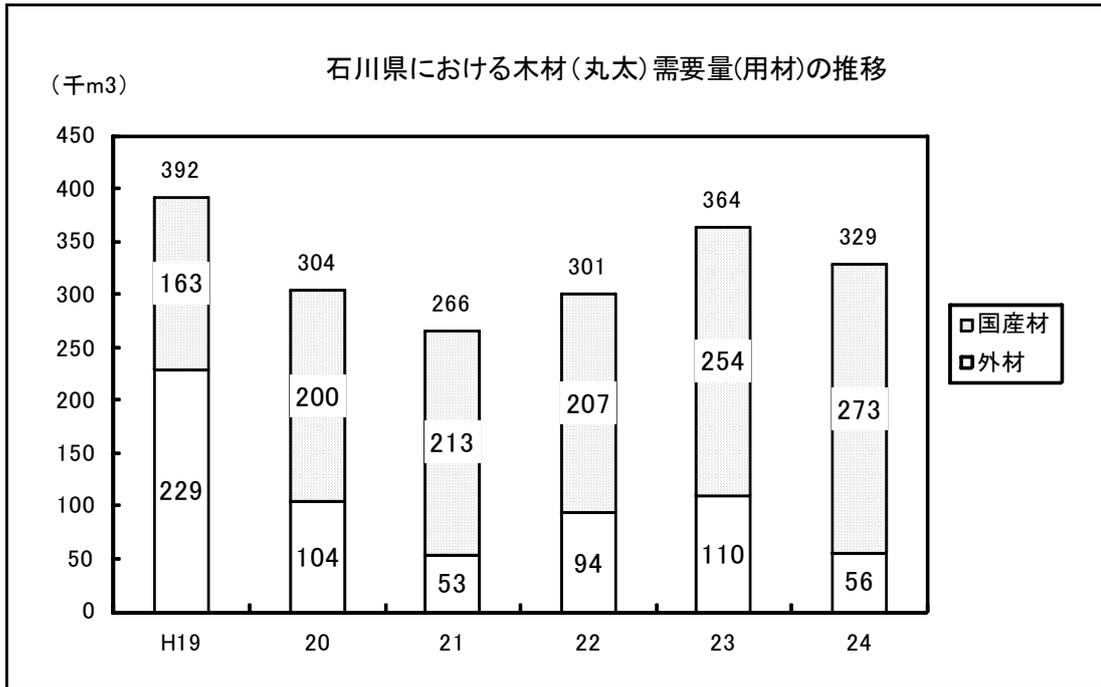
○ 供給面では製材用を中心として素材生産量が減少

平成 24 年次の県内素材生産量は 124 千 m³ (対前年 90.5%) であった。
用途別では、製材用が 61 千 m³ (対前年 82.4%)、合板用が 35 千 m³ (対前年 94.6%)、チップ用が 28 千 m³ (対前年 107.7%) となった。



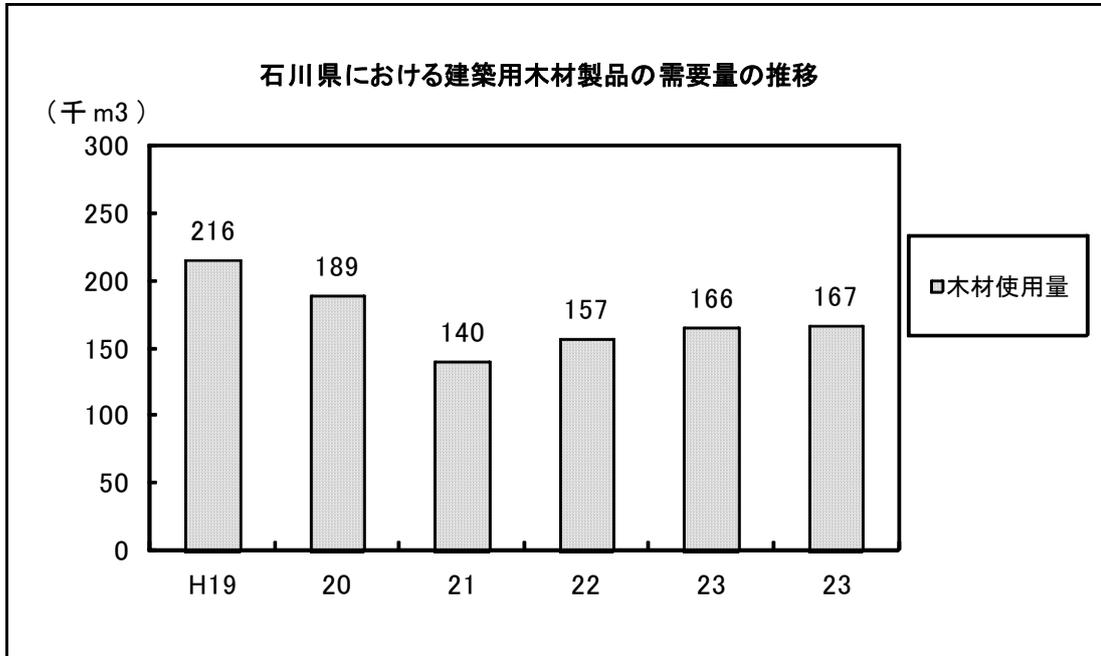
○ 需要面では外材から国産材への転換の動きが見られるが、全体では減少

平成 24 年次の県内木材(丸太)需要量は 329 千 m³ (対前年 90.4%) となった。内訳は、国産材が 273 千 m³ (対前年 107.5%)、外材が 56 千 m³ (対前年 50.9%) であり、国産材の割合は、82.9% (対前年 13.2 ポイント増) となった。



(2) 製品

平成24年次の県内建築物着工床面積は木造646千m²(対前年比102.7%)、非木造646千m²(対前年比95.3%)であったことから、建築用木材製品の需要量(推計)は167千m³(対前年100.6%)となった。



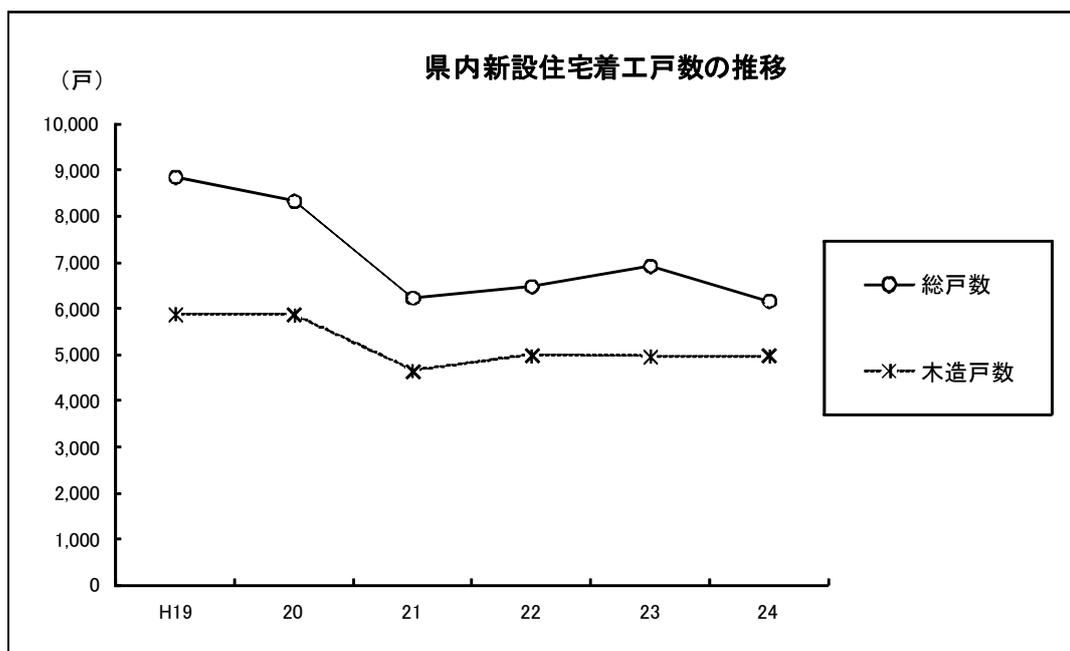
【推計方法】 木造：着工床面積(m²)×0.180(m³/m²)
 非木造：着工床面積(m²)×0.078(m³/m²)

(3) 新設住宅着工戸数の推移

○ 新設住宅着工戸数は減少、木造住宅は横ばい

平成 24 年次の県内新設住宅着工数 6,164 戸(対前年 89.0%)のうち木造住宅は 4,978 戸(対前年 100.3%)となった。新設住宅着工数の木造率は 80.8%(対前年 9.1 ポイント増)であった。

着工新設住宅の総床面積は 661 千㎡(対前年 96.8%)で、1 戸当たりの平均床面積は 107.2 ㎡(対前年 108.7%)であった。



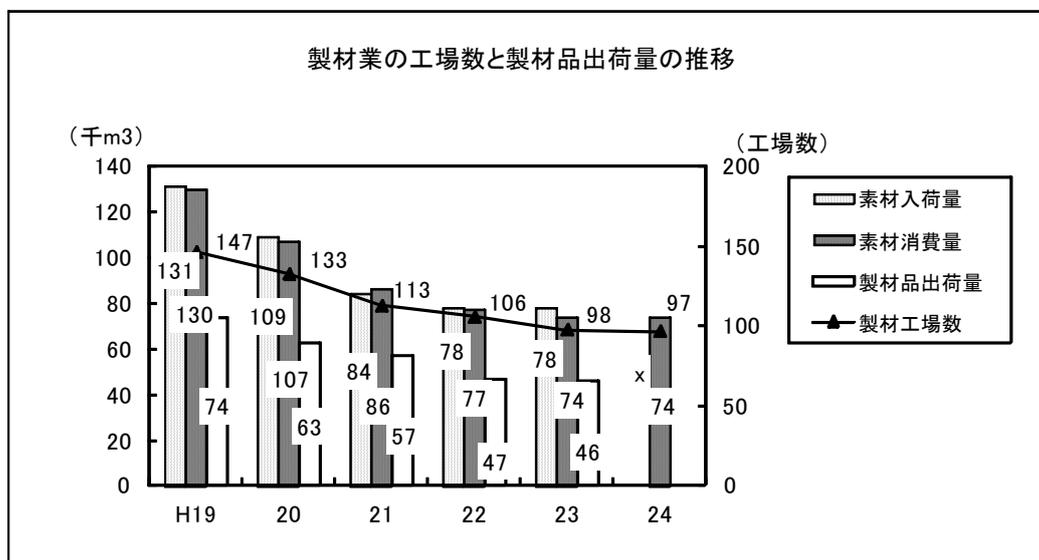
2 木材加工業の現状

(1) 製材業

○ 工場数が減少

平成 24 年次の県内製材工場数は 97 工場(対前年 1 工場減)、従業者数は 279 人(対前年 3 人減)となり、素材消費量は 74 千 m³(対前年 100.0%)であった。

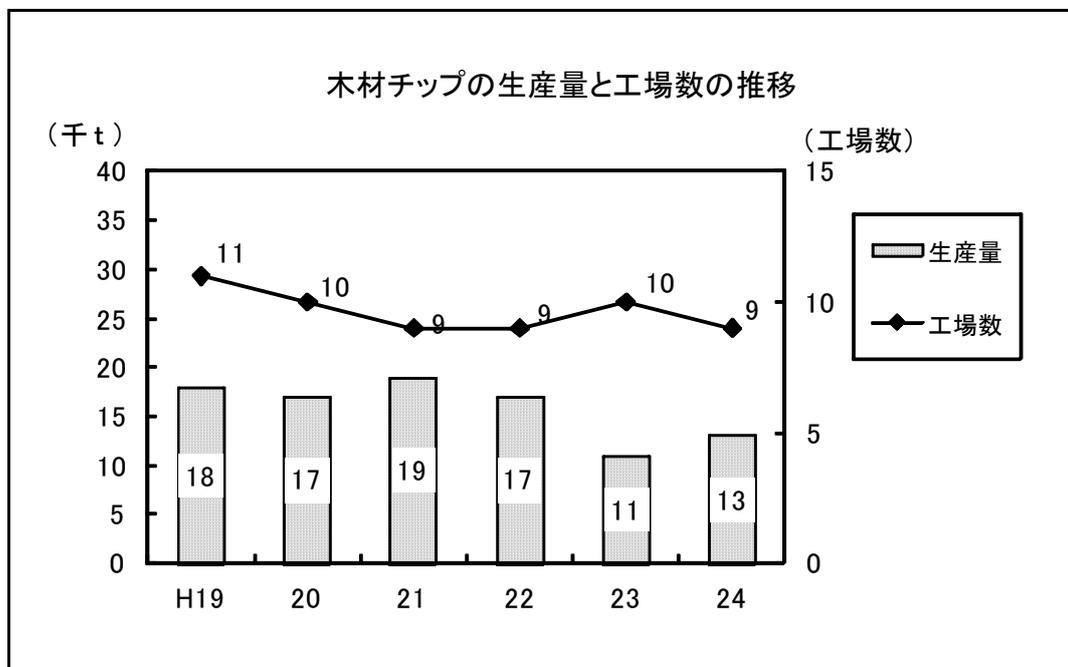
また、動力の総出力数は、8,459kW(前年比 95.7%)であり、1 工場当たりの平均出力数は 87.2kW であった。



(2) 木材チップ工業

○ 生産量が増加

平成 24 年次の県内木材チップ生産量は、13 千 t (対前年 118.2%) となった。原材料入手区分別では、工場残材が 5 千 t (対前年 125.0%)、素材が 8 千 t (対前年 114.3%) となった。工場数は 9 工場 (対前年比 1 工場減) であった。



※合板加工業については、1社のみであるため記載を省略

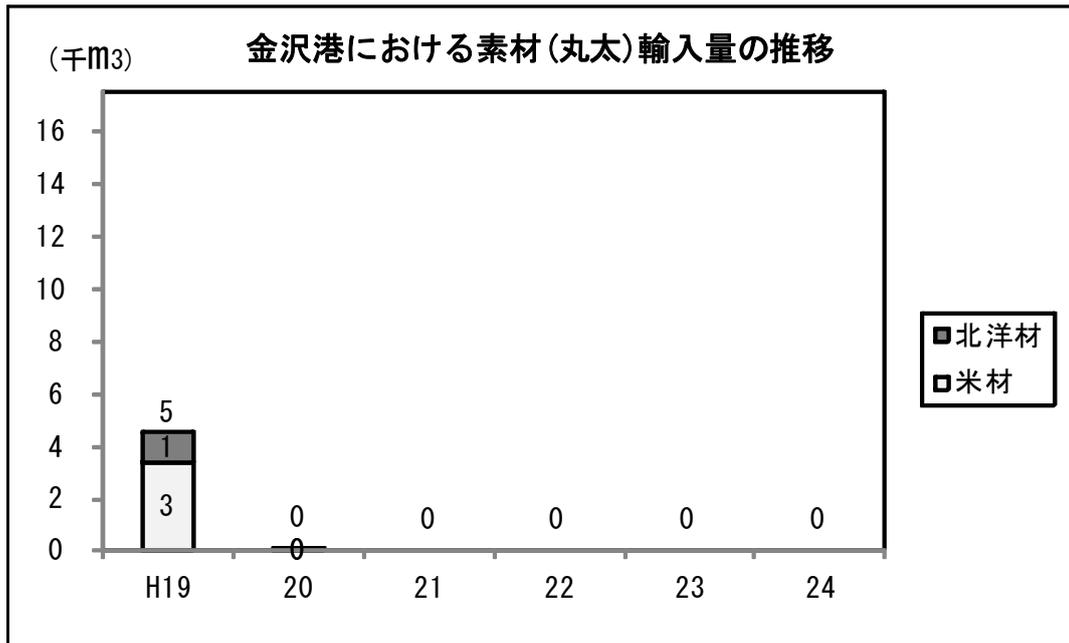
3 木材輸入の動向

(1) 素材(丸太)

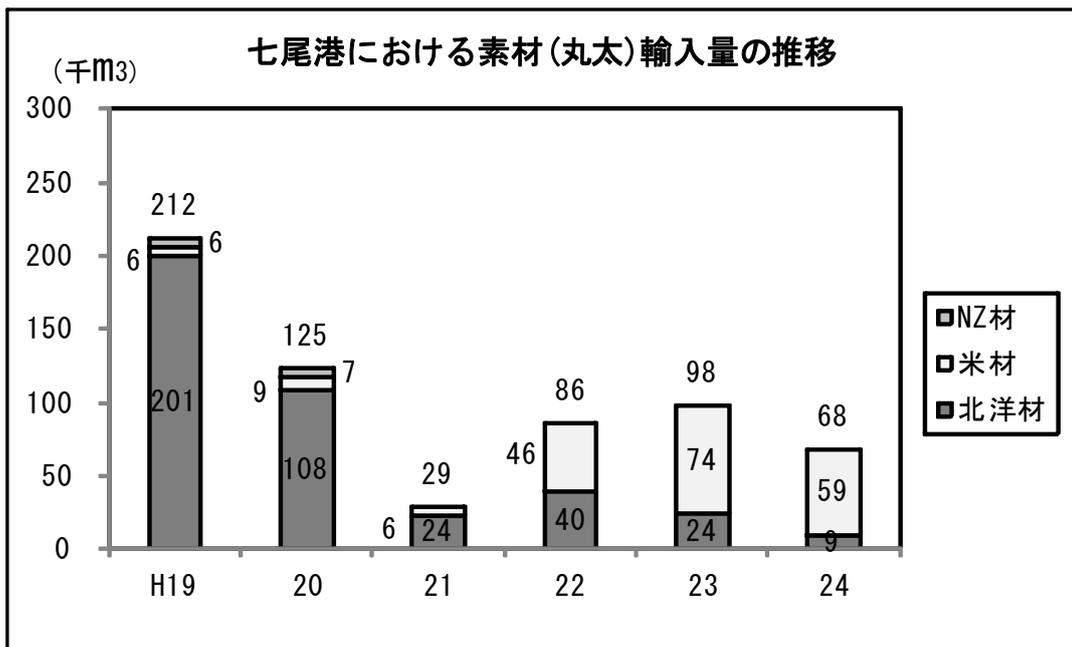
○ 輸入量が減少

平成 24 年次の県内素材(丸太)輸入総量は 68,007m³ (対前年 69.6%) で、そのすべてが七尾湾への陸上げであった。内訳は、北洋材が 9,359m³ (対前年 39.1%)、米材が 58,647m³ (対前年 79.6%) であった。

北洋材の内訳をみると、エゾマツが 8,296 m³ (構成比 88.6%)、アカマツが 1,064m³ (構成比 11.4%) となった。



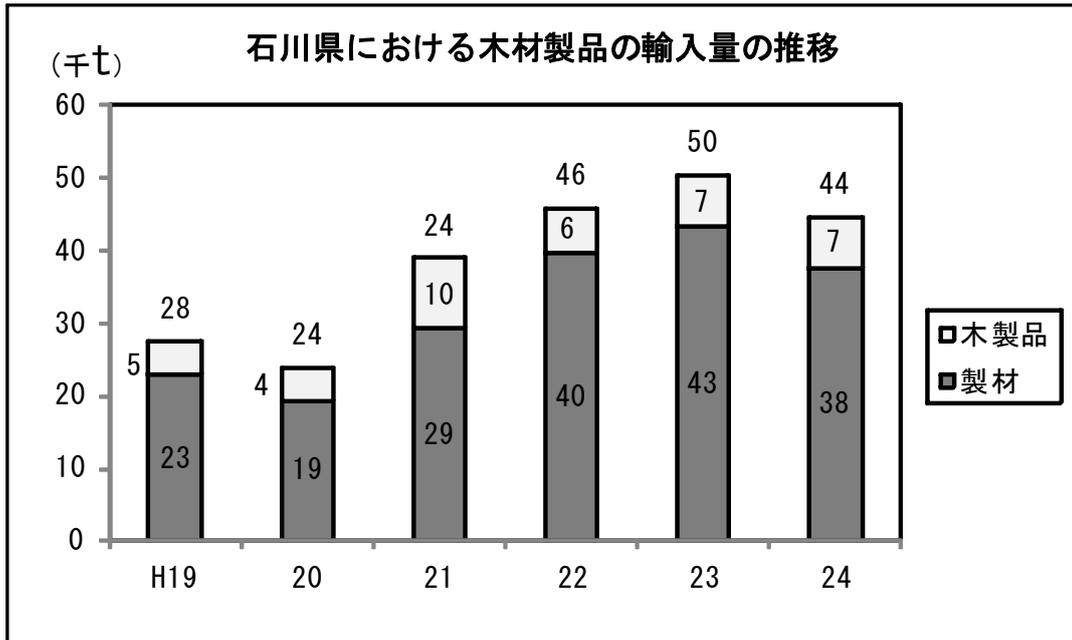
注：平成 20 年次の金沢港における木材輸入量は北洋材 27 m³



(2) 製品

平成 24 年次の県内木材製品の輸入総量は 44,473t(対前年比 88.6%)で、その内訳は製材が 37,543t(対前年比 87.0%)、木製品が 7,025t(対前年比 98.6%)であった。

注：木製品は、合板、集成材、建具等を指す。

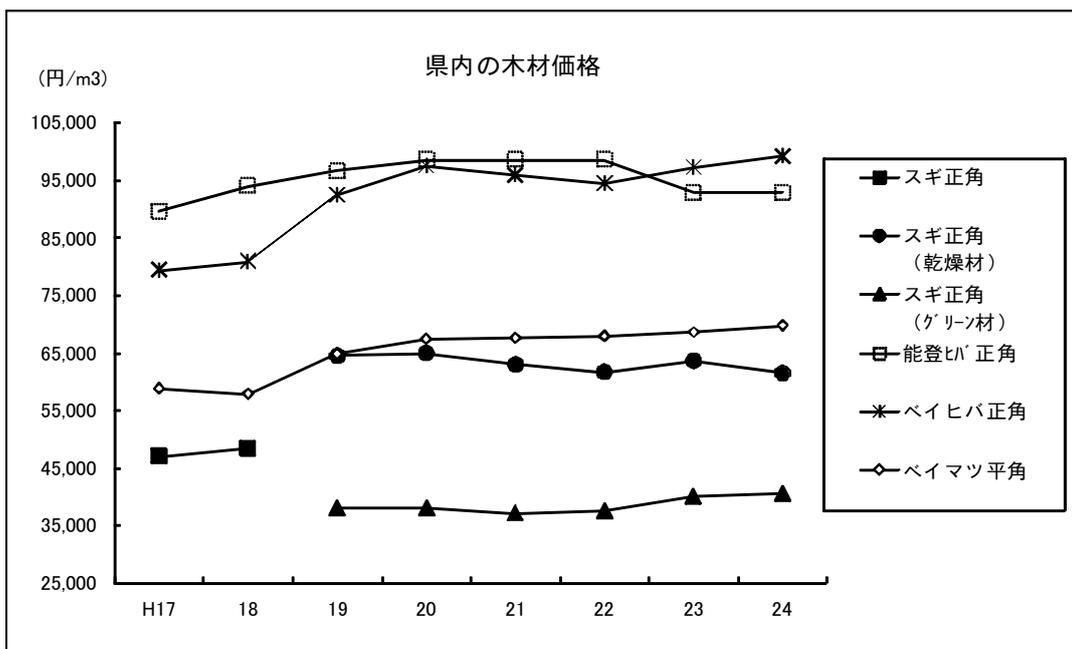


4 木材価格の動向

(1) 製品

○ スギ正角（乾燥材）が下落

平成 24 年次の県内の木材製品価格は、スギ正角（乾燥材）61,500 円/m³（対前年 2,100 円安）、スギ正角（グリーン材）40,500 円/m³（対前年 500 円高）、スギ正割 52,200 円/m³（対前年 400 円高）、能登ヒバ正角 92,800 円/m³（保合）となり、ベイヒバ正角 99,200 円/m³（対前年 1,900 円高）、ベイマツ平角 68,600 円/m³（対前年 1,200 円安）となった。



平成 19 年 5 月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

(2) 素材(丸太)

○ 外材は上昇、県産材は下落

平成 24 年次の県内の素材価格は、スギ 10,400 円/m³(対前年 1,400 円安)、能登ヒバ 14,900 円/m³ (対前年 2,900 円安) 北洋カラマツは 20,000 円/m³(対前年 500 円高) ベイマツ 25,100 円/m³(対前年 500 円高)となった。

